

司書便り・臨時号

2025年3月発行
学校司書 大槻 順子

3月6日(木)の放課後、三中図書室において、ブックトークが開催されました。
三中からは五名が、「崖っぷち～助かるか、助からないか」をテーマに本を紹介しました。
また、中央図書館から「考える」をテーマに二名の方が本の紹介にいらしてくれました。

1年2組 古賀響さん

『小説の小説』 似鳥鶏 著
『だから捨ててといたのに』
潮谷 駿 他、著

古典からのコピペで推理小説を書く！？
大騒ぎ、から始まる25編！崖っぷちにいた
のは作者のほうかもしれない。

1年2組 内倉月子さん

『一兆年と一夜物語』 KEMU VOXX 著
『人生リセットボタン』 KEMU VOXX 著
『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』
青柳碧人 著

忌むべき子供として生まれる、記憶と引き換
えのリセットボタンを渡される、など、究極の
選択を迫られる！

2年1組 小川暦さん

『親愛なるあなたへ』 カンザキイオリ 著
『豆の上で眠る』 湊かなえ 著

親子、友人、恋人同士。近い関係だからこ
そ、いったんこじれると取り返しのつか
ないところまで関係が悪化してしまうこ
とも。

2年1組 樋口水さん

『六人の嘘つきな大学生』 浅倉秋成 著
『星くずの殺人』 桃野雑派 著
『みんな虫を殺したかった』 木爾 チレン 著

だましあい、密室、嫉妬。極限状況であらわに
なる、黒い感情に追いつめられる…！



学校司書

『PARIS』 パリス・ヒルトン 著

『庭に埋めたものは掘り起こさなければならない』 齋藤美衣 著

『従順さのどこがいけないのか』 将基面貴巳 著

元祖インフルエンサーでビリオネアのパリス・ヒルトンは、高校時代 ADHD の治療を騙った施設で虐待を受けていた。また歌人の齋藤美衣は希死念慮により精神科への入院を繰り返していた。この二人は、従順さをかなぐり捨てることで苦境から脱出することが可能になった。

中央図書館 石山さん

『じゃない』 チョーヒカル 著

『あるかしら書店』 ヨシタケシンスケ 著

『13歳からのアート思考』 末永 幸歩 著

『昔話法廷』 NHK 制作班 著

考えに行き詰ったらいつもと違う視点とは何か、具体的に体験してみよう。

中央図書館 大橋さん

『フェイクニュースがあふれる世界に生きる君たちへ』 森 達也 著

『ウェズレーの国』 ポール・フライシュマン 著

『風に乗って、跳べ 太陽ときみの声』 川端 裕人 著

20年前のとある三中学生の悩みを本を使って解決する試み。

アンケートより

- ・続きが気になる。最後まで読みたくなった。
- ・いつもと違うジャンルの本も読んでみたくなった。
- ・“中学生の悩み”に納得できた。
- ・自分の環境や悩みにあった本を読んできたいと思った。
- ・本の匂いがするほど世界にひきつけられた。
- ・いままで読書はしなかったが興味が出てきた。